

No	37								
指標名	輸血後感染症検査実施率								
定義	$\frac{\text{(分子)輸血後感染症検査実施人数}}{\text{(分母)輸血実施人数}}$								
結果	<table border="1"> <caption>輸血後感染症検査実施率 (当院)</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>実施率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2015年度</td> <td>11.2%</td> </tr> <tr> <td>2016年度</td> <td>19.2%</td> </tr> <tr> <td>2017年度</td> <td>33.1%</td> </tr> </tbody> </table>	年度	実施率	2015年度	11.2%	2016年度	19.2%	2017年度	33.1%
年度	実施率								
2015年度	11.2%								
2016年度	19.2%								
2017年度	33.1%								
コメント (解説)	<p>血液製剤の安全性向上のおかげで、輸血後肝炎や HIV などの感染症の発生は激減しましたが、輸血前後に肝炎関連ウイルス検査を行うことは、輸血後肝炎等の早期発見・早期治療を図り、ウィンドウ期に献血した可能性のある供血者の除外につながり、感染拡大防止に寄与します。</p> <p>また万が一、輸血後肝炎等に罹患した場合、輸血前の当該ウイルス感染の再確認・証明が「生物由来製品感染等被害救済制度」による給付金制度適用の判断に必須となっています。</p> <p>また輸血後感染症検査結果については、原則として輸血部から直接患者さんへ結果を通知しています。</p> <p>以上のことから、当院でも生命予後不良例やご高齢の患者を除いて、輸血後感染症検査の実施を推奨しています。</p> <p>院内での掲示板への記載、院内職員教育、医療秘書の確認、患者さんへの周知などを通じて、感染症検査実施率は着実に改善しており、30%を超えるようになってきました。</p>								